

若狭湾西部海域における小型底曳網漁業の

投棄魚について* (抄録)

北 沢 博 夫

底曳網漁業では市場に出荷される漁獲物の他に、海上投棄される投棄漁獲物がある。この投棄漁獲物の実態を把握するために、操業観察と標本採集を行い、次の結果を得た。投棄漁獲物は1曳網当たり30～120 Kgで、操業場所と対応しながら量、組成が大きく変動する。オカ場(200 m以浅)に比べてタラ場(200 m以深)での漁獲が多いが、種の多様性ではタラ場はオカ場に比べて単純である。主要な漁獲対象種で小型のものが投棄されており、投棄漁獲物中に占めるその重量比率はおよそ15～50%である。出荷漁獲物と投棄漁獲物を個体数で比較すると主要な対象種でも、全漁獲物の半数以上が海上投棄され、ヒレグロ・ズワイガニでは特に投棄尾数の多さが顕著であった。すなわち、ヒレグロでは全漁獲尾数のおよそ70～90%以上、ズワイガニでは70%前後が海上投棄されている。

以上の結果より、小型底曳網漁業の漁業生産増について若干考察すると、アカガレイ・ヤナギムシガレイ・ヒレグロについての全漁獲物の推定体長組成から判断して小型魚を漁獲しないような網目の大きさにしても漁獲量の減少にはならないと考えられる。このことは、小型魚の海上投棄を減らすことによって小型魚を保護し、選別処理を軽減することになり、漁獲量の増大が期待できるものと考えられる。

この結果及び考察は限られた時間と空間の中で得られたものであり、その妥当性について論議を深め、さらに小型底曳網漁業の資源評価や資源管理のために、投棄漁獲物についての調査、研究が必要なものと考えられる。

* 日本水産学会誌 Vol 48, No. 8 (1983) に発表した。